

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

2022年6月期 第2四半期決算説明資料

フィーチャ株式会社（東証マザーズ4052）

2022年2月14日

1. 業績ハイライト
2. 当第2四半期決算概要
3. 事業の概要及び成長戦略

Appendix

- ・四半期決算情報

本資料の数値はすべて連結ベースで記載しております。

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

1. 業績ハイライト

2. 当第2四半期決算概要

3. 事業の概要及び成長戦略

Appendix

・四半期決算情報

**Make Things
Intelligent**

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

□売上高が前年同期比で大幅増収、黒字転換

- ・受託開発収入+127.8%

前期コロナによる顧客予算縮小の反動で、今期は足元の受注が回復傾向

- ・ライセンス収入+21.9%

ドライブレコーダーの販売が引き続き好調

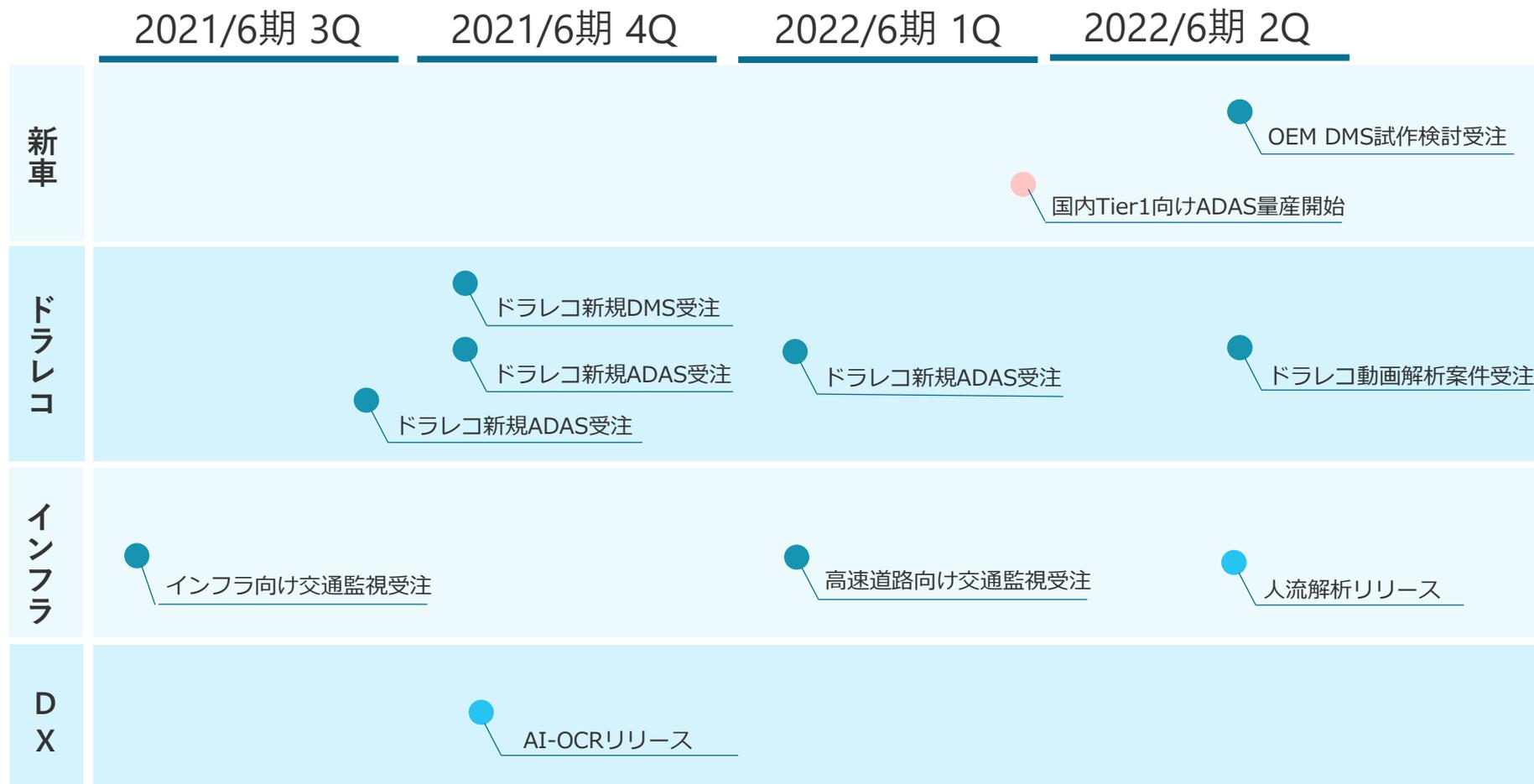
□新車向け車載カメラ案件の量産が順調に立ち上がり

(単位：百万円)

	2021年6月期	2022年6月期		
	2Q実績	2Q実績	前年同期比	通期予想
売上高	118	185	+56.9%	421
うち、受託開発収入	39	88	+127.8%	193
うち、ライセンス収入	79	96	+21.9%	228
営業利益	△33	6	—	15
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	△31	5	—	13

将来のライセンス収入につながる量産案件の受注を着実に積み上げ

■新機能、新製品リリース及び量産案件受注状況



1. 業績ハイライト
2. 当第2四半期決算概要
3. 事業の概要及び成長戦略

Appendix

- ・四半期決算情報

Make Things Intelligent

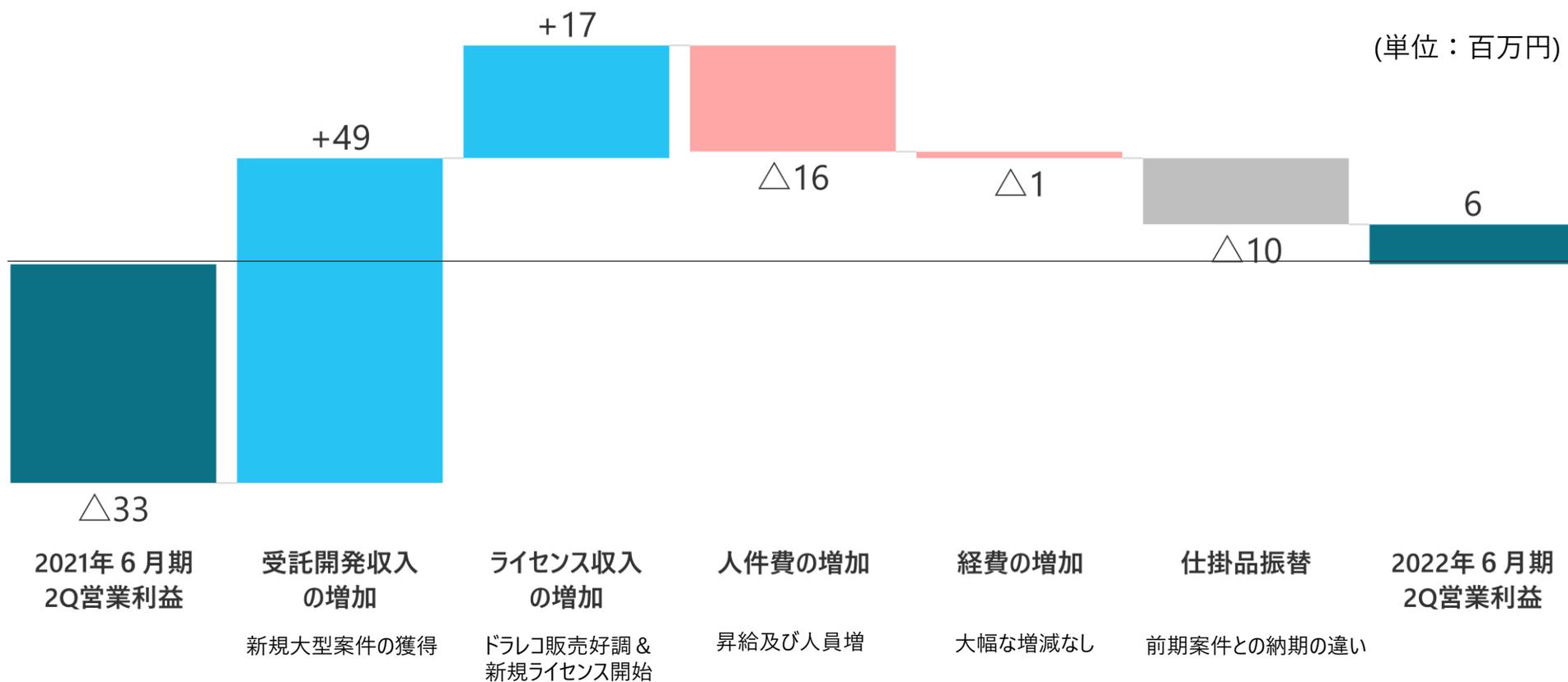
あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

受託開発収入、ライセンス収入ともに前年同期比で大幅増収、黒字転換

(単位：百万円)

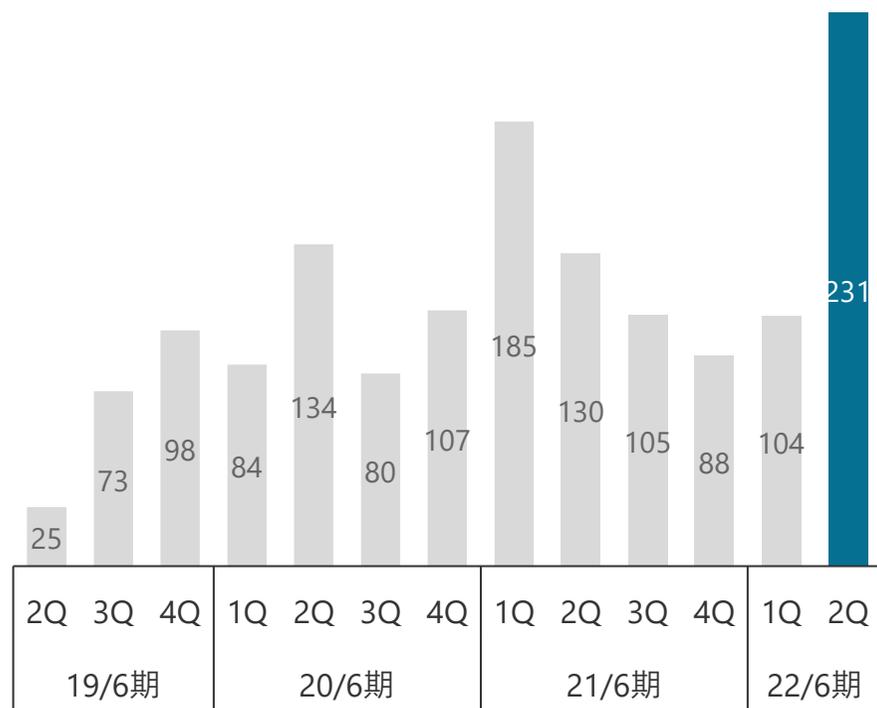
	2021年6月期	2022年6月期			
	2Q実績	2Q実績 (新会計基準ベース)	前年同期比	2Q実績 (旧会計基準ベース)	通期予想
売上高	118	185	+56.9%	211	421
うち、受託開発収入	39	88	+127.8%	88	193
うち、ライセンス収入	79	96	+21.9%	122	228
売上原価、販管費	151	179	+18.2%	179	406
うち、人件費	96	112	+16.9%	112	262
うち、経費	60	61	+1.2%	61	140
うち、仕掛品振替	△5	5	—	5	2
営業利益	△33	6	—	32	15
経常利益	△32	6	—	32	15
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	△31	5	—	31	13

受託開発収入及びライセンス収入の増加が人件費の増加を上回り、黒字転換

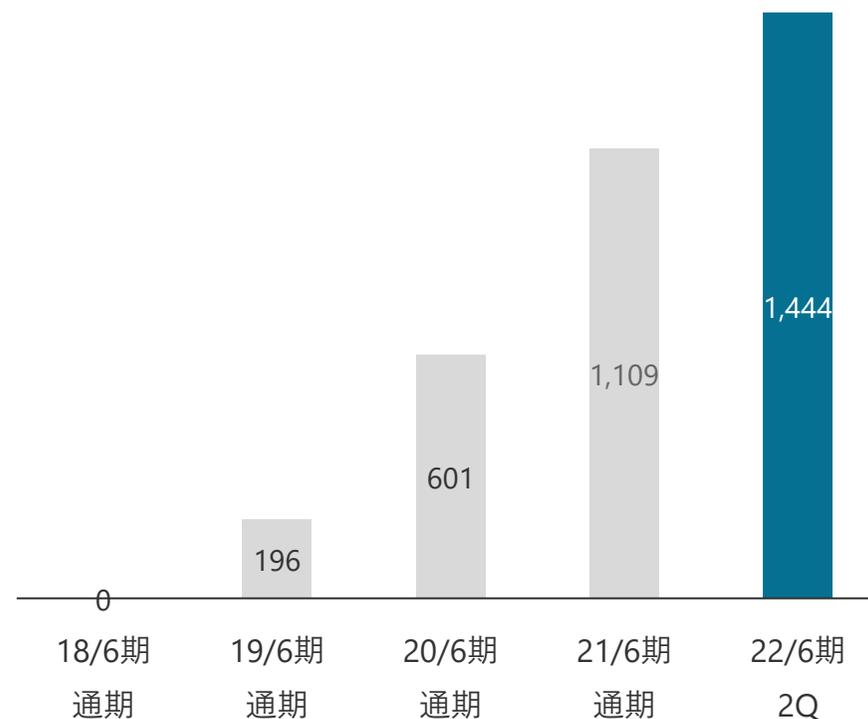


ドライブレコーダーの販売が引き続き好調、当2Qで新規案件の一括納品があり大幅増

四半期別量産台数 (千台)



累計量産台数 (千台)



1. 業績ハイライト
2. 当第2四半期決算概要
3. 事業の概要及び成長戦略

Appendix

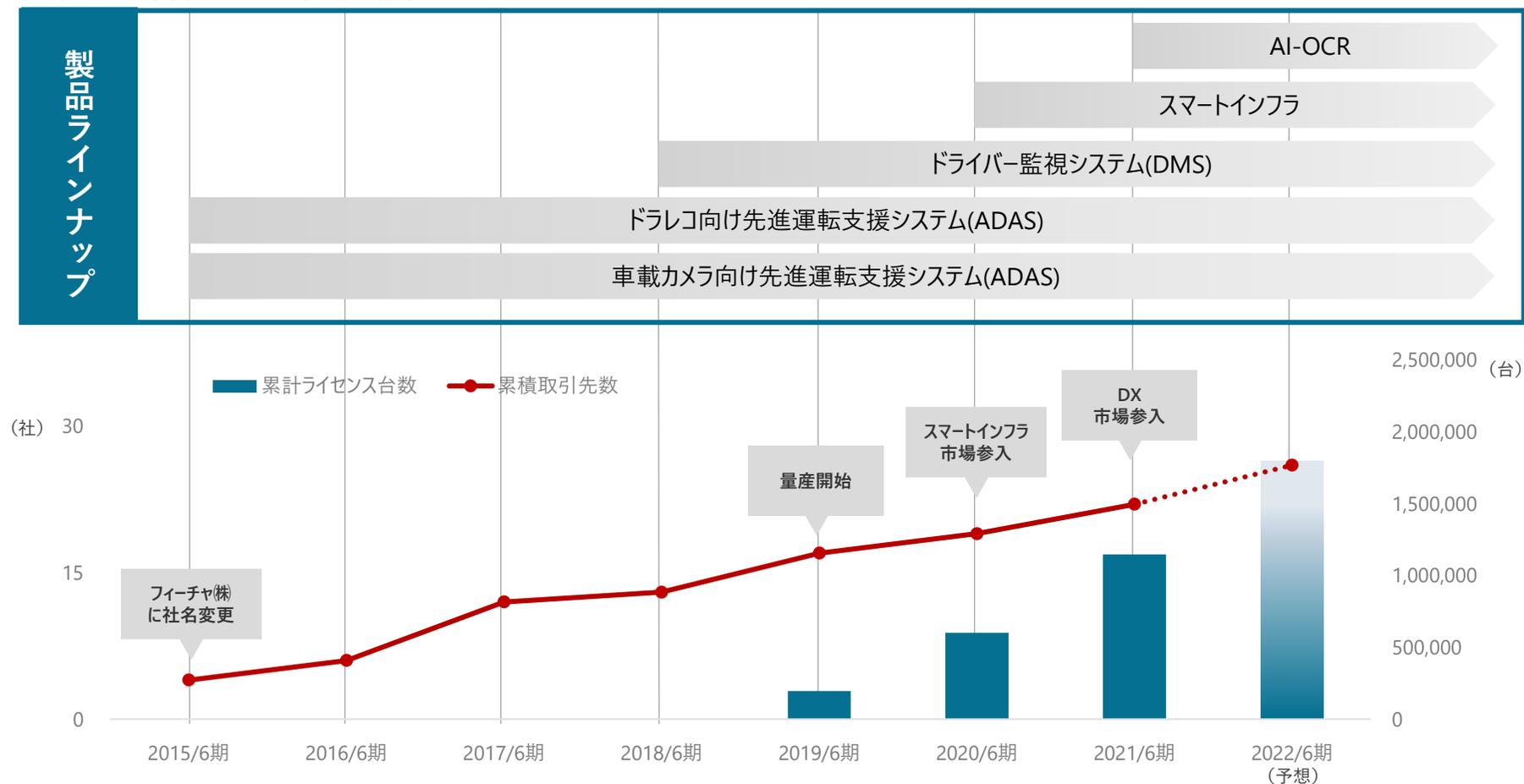
- ・四半期決算情報

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

- 製品ラインナップの充実とともに、着実な成長を実現
- 高い技術力と実用性を評価いただき、累計ライセンス台数は140万台を突破

累積取引先数と累計ライセンス台数の推移



モビリティ事業を主軸に、スマートインフラ事業やDX事業まで幅広く展開

モビリティ事業

安全運転・自動運転の推進拡大による
量産案件の増加。ライセンス収入の安定化。

主製品：
車載カメラ及びドラレコ用
先進運転支援システム(ADAS)
ドライバー監視システム(DMS)



スマートインフラ事業

ADAS技術の応用が可能。
スマートシティの実現に向けた
インフラに関する様々なニーズあり。

主製品：
交通監視ソフト、インフラ制御ソフト



DX事業

多様な企業でのDX推進の動きが加速化。
独自の画像認識ノウハウを生かし、開発精度や
処理速度も提供可能なレベルに到達しリリース。

主製品：
AI-OCR、Form Analyzer

納品期間	令和3年 12月 1日	納品場所	〒170-6019 東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイ 60 19F		
商品コード	商品名	単位	数量	単価	金額(税込)
5R2P12	ホワイトボード		20	¥1,000	¥2,200
4678Q	ペン		50	¥200	¥1,000
6W54H	A型バリケード		1	¥3,250	¥3,250
合計金額					¥6,750



ADAS&DMS ラインナップが充実

(先進運転支援システム)(ドライバー監視システム)

POINT 01

「軽量」かつ「高精度」

KITTI* ベンチマークテスト歩行者検出第**1**位
汎用SOCで動作可能な軽量ディープラーニング

POINT 02

豊富なラインナップ

ADAS フロント、サラウンドカメラ向け先進運転支援
DMS 居眠り、脇見、危険運転等の検知
プライバシーマスキング、看板OCR

POINT 03

量産実績多数

累計ライセンス台数**140万台**を突破
国内Tier1向け車載カメラ用IP量産開始



製品ラインナップ一例

種類	検知対象	機能
ADAS	車両検知	前方車間距離
		衝突警報
	車線検知	低速時追突警報
		車線逸脱警告
	横断歩道検知	一旦停止無視
	歩行者検知	信号無視検知
DMS	信号検知	速度超過警告
	標識	一時停止不停止検知
		居眠り
	脇見	脇見運転検知
	危険動作検知	携帯電話操作/通話検知
その他	プライバシーマスキング	喫煙検知
		運転手の顔認証
	看板OCR	

■市場の状況

ドラレコの高機能化やドラレコのデータ活用ニーズが拡大
自動運転時代へ向かい、運転手監視も大きなニーズ

■ビジネスの状況

処理の軽さ及びドラレコ・車載カメラへの多数の量産実績を
評価いただき、新規顧客が拡大

量産案件が積み重なり
モビリティ事業は順調に成長

交通監視、インフラ制御に画像認識技術のニーズ大

POINT 01

モビリティ技術の応用

- 車載用画像認識ソフトウェアで培った豊富な開発実績や技術・ノウハウをインフラ向けへ応用
- ・ ADAS技術：交通監視、インフラ制御、人流解析 etc.
 - ・ DMS技術：個人認証、デジタルサイネージ etc.

POINT 02

個人情報・プライバシーにも配慮

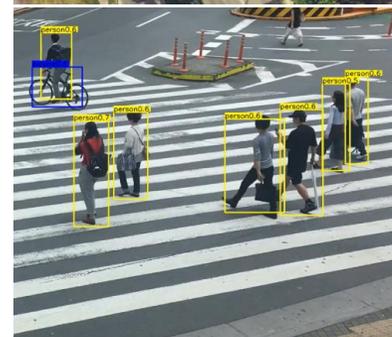
- ビッグデータ解析にあたり取得・保管する情報への配慮が必要
- 個人情報保護の観点から、**自動マスキング技術**の利用ニーズ増加
- クラウドだけでなく、**エッジ処理**も可能

■市場の状況

交通監視やインフラ制御に大きなニーズ
5Gの普及に伴い、市場が世界的に急拡大

■ビジネスの状況

複数案件の量産に向けた開発が進行中



現在、複数の
量産案件が進行中

当社独自のAI技術 ⇒ 高精度なAI文字認識エンジンを開発

POINT 01

活字、手書き文字を高精度で認識

文字領域を高精度に自動検知
最先端の文字認識アルゴリズムを活用
大規模な学習データセットで学習

POINT 02

フォーム自動解析

帳票画像から項目名と項目値のペアを自動的に抽出
レシート、請求書等の様々な帳票に対応可能
特定の書類に特化したサービス構築が可能

POINT 03

ライブラリ提供可能

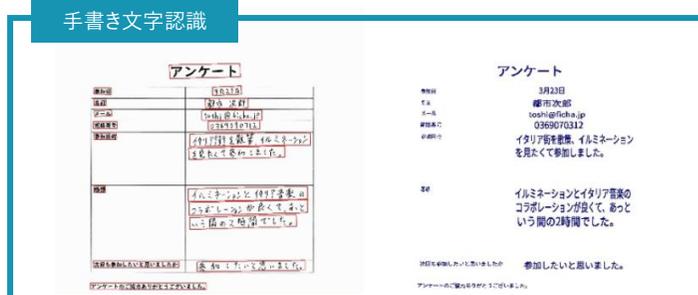
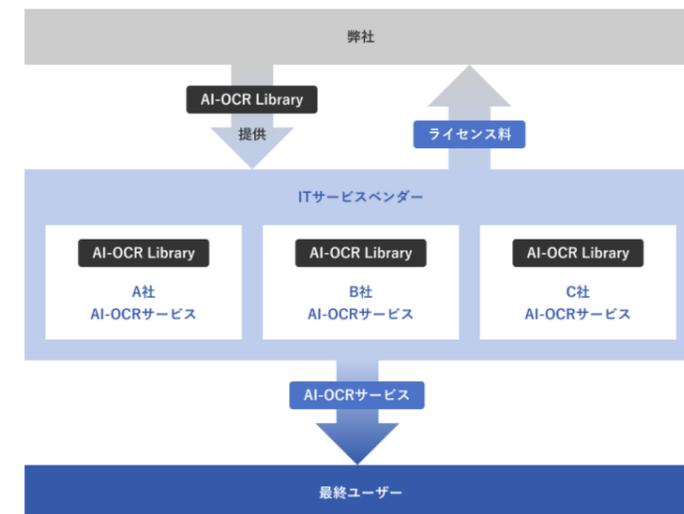
自社クラウド/サーバ内でライブラリ利用可能
クラウドが使用できないケースにも対応可能

■ 市場の状況

コロナ禍においてペーパーレス化と業務自動化(DX化)が一層進む
AIによる認識精度向上に伴い、OCR導入が拡大

■ ビジネスの状況

2021年4月の展示会に初出展、引き合い多数



DX市場へ新規参入 事業の新しい柱として期待

1 「軽量」かつ「高性能」なエッジAI

車載カメラやドラレコ等の非力なLSI で動作可能な高精度な軽量AIを保有。顧客のニーズに沿って開発した豊富なソフトウェアラインナップを有する。

2 車載、ドラレコへの量産実績多数

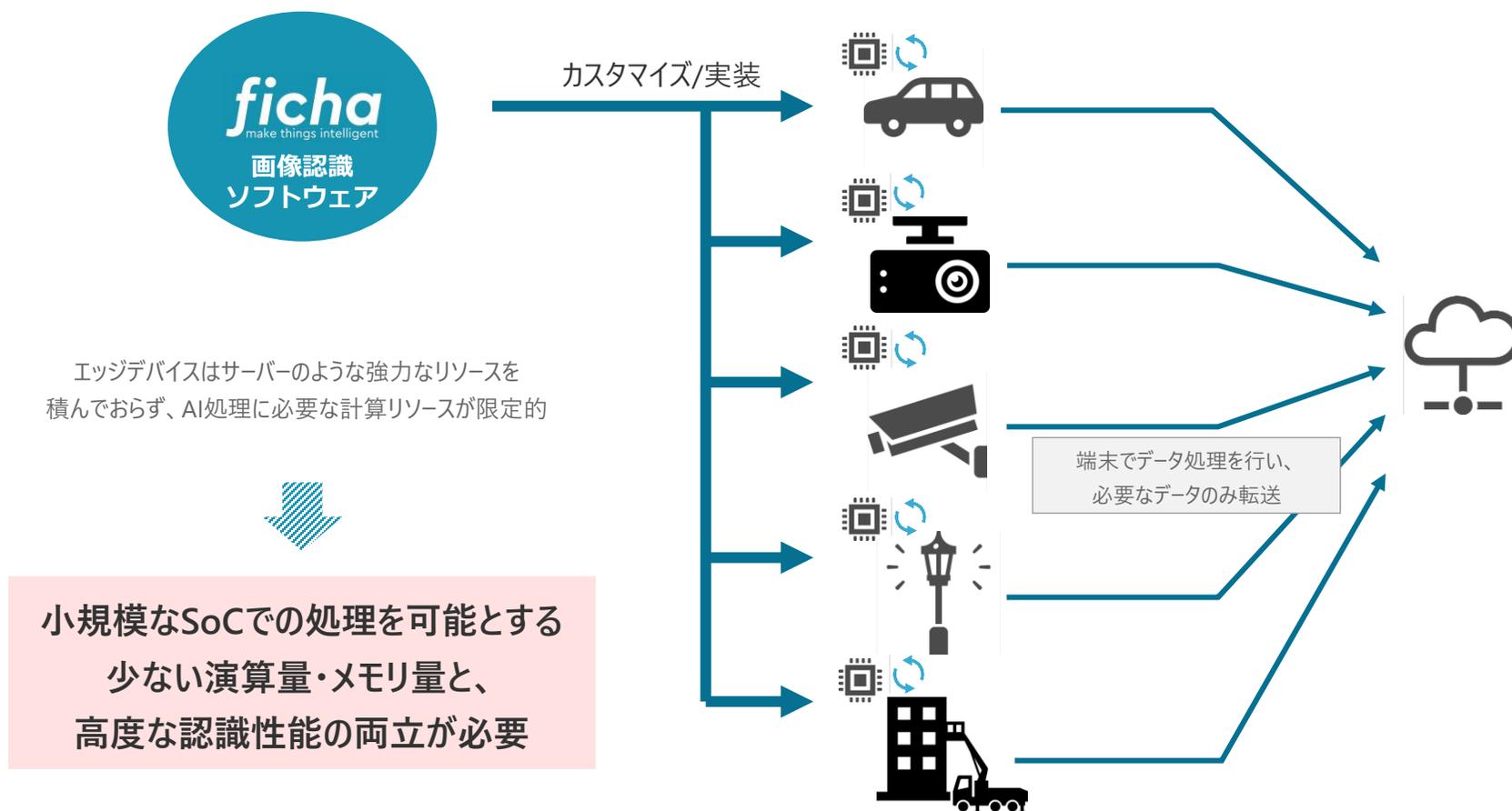
当社の画像認識ソフトウェアは、その実装性能を評価され、車載カメラやドラレコに採用され、多数の製品で量産化。累計搭載台数は140万台を突破。

3 豊富なAIモデル、ビッグデータを保有

モビリティ分野及びスマートインフラ分野の開発経験を通じて、豊富なAIモデルと撮影画像などのビッグデータを保有。顧客向けに効率的な開発が可能。

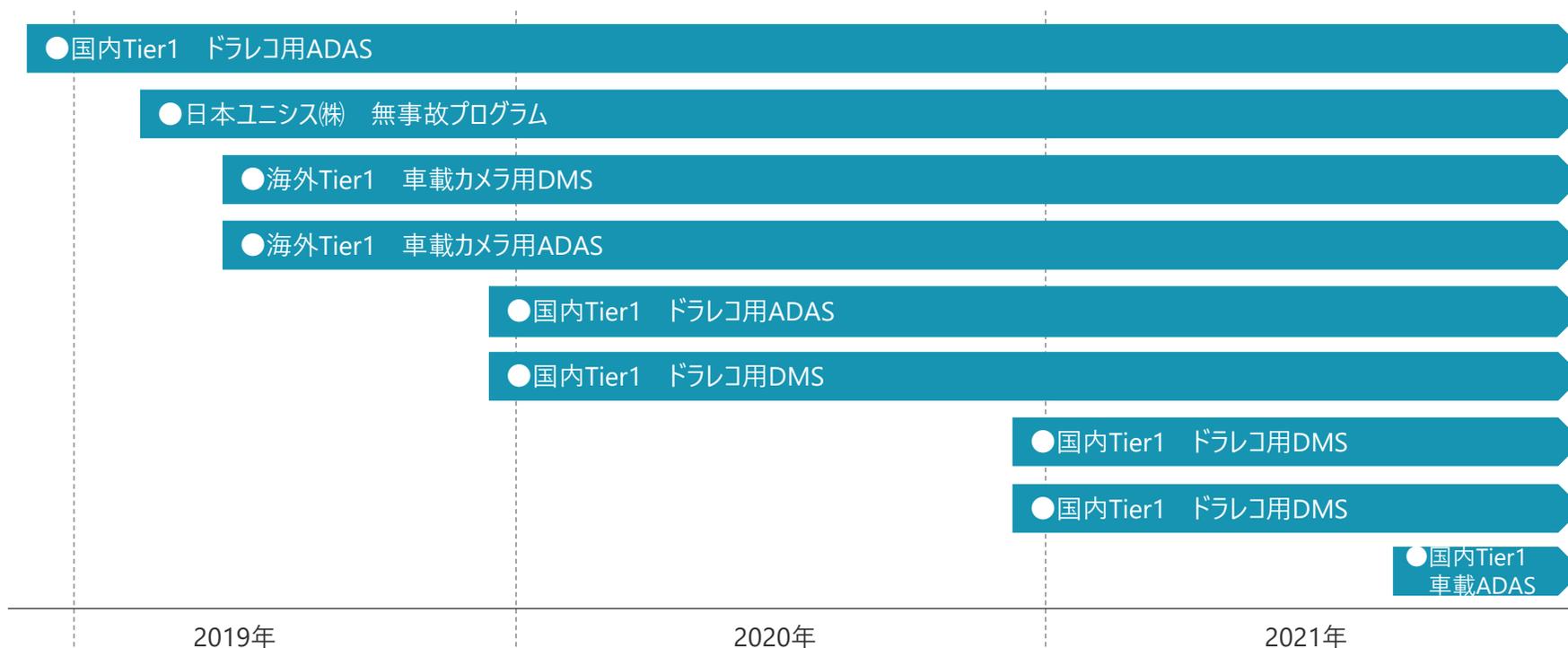
強み① 「軽量」かつ「高性能」なエッジAI

- 独自のアルゴリズムにより、精度を落とさず軽量化を実現
- 高性能なモデルを低スペックなエッジデバイスに実装することが可能
- 自社で大規模なデータを保有し、少ない顧客データで高性能なモデルを開発可能



強み② 車載、ドラレコへの量産実績多数

- 日本ユニシス（株）の無事故プログラムサービスに使用されるドライブレコーダに信号無視、一時停止不停止、速度違反検出のソフトウェアを搭載し、2019年2月からサービス開始
- 歩行者・車両検出及びDMSソフトウェアが国内外Tier 1の自動車メーカーの製品に搭載
- 高い専門性と量産化のノウハウにより、顧客のニーズに沿った最適なソリューションを提供可能





1

車載ソフトウェアの更なる拡充

今後もニーズの拡大が予想される車載用画像認識ソフトウェアの開発及び販売を進めることにより、事業の拡大と高い成長性を継続する方針です。

2

ディープラーニング技術の開発加速

今後、一層の高性能化が期待される画像認識分野において、ディープラーニングは必要不可欠な技術となります。当社では、ディープラーニング技術の研究開発を促進し、新規案件の獲得に努めます。

3

スマートインフラ、DX（AI-OCR）分野への展開

今後拡大が見込まれる、インフラやDX等の市場において、画像認識技術が一層普及してくるものと考えられます。当社としても、これらの分野にも積極的に進出し、事業の拡大を図っていく方針です。

- モビリティ分野で培った技術力を、今後伸長するインフラ分野、DX分野などに積極的に進出し、事業の拡大を図っていく方針です。

	モビリティ	スマートインフラ	DX (AI-OCR)
キーワード	自動運転 運転支援 運転手監視	スマートシティ 自動運転対応交通網 ホーム、介護支援	手書き文字、帳票対応 RPA 各種アーカイブ
技術的優位性	<ul style="list-style-type: none"> • ADAS、DMSラインナップ • 精度と軽さが両立する技術 • 量産実績120万台 	<ul style="list-style-type: none"> • 交通監視 • 道路状態検知 • 照明制御 など応用可能な技術を保有	<ul style="list-style-type: none"> • 車載で培った文字検知精度 • 処理の軽さ • ライブラリ提供ビジネスモデル
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> • 既存顧客の量産開始 • 新規顧客の増加 • ライセンス収入増加へ 	<ul style="list-style-type: none"> • 新規案件増加 • 量産化へ向けて開発中 	<ul style="list-style-type: none"> • 2021年4月に展示会初出展 • 引き合い多数 • 性能について好評価

1. 業績ハイライト
2. 当第2四半期決算概要
3. 事業の概要及び成長戦略

Appendix

- ・四半期決算情報

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

(単位：百万円)

	2021年6月期				2022年6月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	66	51	74	67	52	132		
うち、受託開発収入	22	16	43	32	20	68		
うち、ライセンス収入	43	35	31	34	31	64		
※売上原価	12	13	29	21	17	36		
売上総利益 (粗利率)	53 81.0%	38 74.1%	45 60.2%	45 67.6%	35 67.0%	96 72.7%		
※販管費	64	61	54	67	63	62		
うち、研究開発費	24	22	14	28	23	20		
営業利益 (営業利益率)	△10 △15.8%	△22 △44.2%	△9 △12.9%	△21 △31.8%	△28 △53.3%	34 25.9%		

※原価＋販管費合計	76	74	84	88	80	98		
うち、人件費	47	48	51	56	56	56		
うち、経費	30	29	32	31	29	31		
うち、仕掛品振替	△1	△3	0	0	△4	10		

本資料は、当社の業界動向及び事業内容について、現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。

これらの将来展望に関する表明の中には、さまざまなリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性があります。

当社の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。

本資料における将来展望に関する表明は、本資料公表日現在において利用可能な情報に基づいて当社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。

IRに関するお問い合わせ先

フィーチャ株式会社 管理部

E-Mail : management@ficha.jp